

中国青銅器

の時代

Sen-oku Hakukokan Museum

BRONZE GALLERY



泉屋博古館
SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

◀「虎卣(こゆう)」

殷後期 前11世紀

後肢で立ち上がった虎が大きく口を開け、人を丸呑みにするかのような姿をあらわす。人は赤ん坊のようにみずから虎に抱きついており、その表情には恐怖の感情は読み取れない。この器の造形をめぐっては、虎が人を喰らう姿とも、虎の姿をした神が人間を守る姿とも解釈されており、明確な答えは得られていない。



◀「鴟鵂尊(しきょうそん)」

殷後期 前13～前12世紀

鴟鵂の姿勢よく立つ姿をあらわした器。尊は酒を容れるための器の一種で、頭が蓋となり、胴部は中空となっている。鴟鵂はフクロウ・ミミズクの類をさす語で、殷代ではこの鴟鵂をかたどった青銅器がつくられ、墓への副葬品としても用いられていた。夜行性の猛禽類という性質を逆手にとって、闇夜を跋扈する邪霊から被葬者を守る役割が期待されていたのかもしれない。



◀「宰桴角(さいこうかく)」

殷後期 前11世紀



2025年

9月27日(土)～12月14日(日)

休館日：月曜日、10月14日、11月4日、11月25日、

(10月13日、11月3日、11月24日は開館)

開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

特集展示

殷周青銅器

解体新書

複雑繊細な殷周青銅器の造形は、いったいどのような技術によって生み

出されたのか。その謎に、当時の鋳型づくりの角度からせまっていきます。台湾中央研究院歴史語言研究所、芦屋釜の里との共同研究にもとづく成果を一挙に公開。

●会場「ブロンズギャラリー」

Gallery-03



Sen-oku Hakukokan Museum BROUZE GALLERY

●……「イベント」

① 特別講演会

「殷墟の青銅器鑄造工房」

（当館ウェブサイトにて要予約／受付開始：9月11日（午前10時））

9月27日（土）午後2時～3時30分

【講師】＝内田純子（台湾中央研究院歴史語言研究所研究員）

【会場】＝当館講堂

② ギャラリートーク

「中国青銅器入門」

（予約不要／定員20名／当館受付にて整理券配布）

10月19日（日）、11月23日（日・祝）午後2時～3時

【講師】＝山本 堯（泉屋博古館学芸員）

【会場】＝ブロンズギャラリー

「中国青銅器の時代」

2025年

9月27日（土）～12月14日（日）

休館日：月曜日、10月14日、11月4日、11月25日

（10月13日、11月3日、11月24日は開館）

開館時間：午前10時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

主催：公益財団法人泉屋博古館

後援：京都市 京都市教育委員会、京博連、

公益社団法人京都市観光協会、

NHK京都放送局、京都新聞

入館料：一般1200円（1000円）、

学生800円（700円）、18歳以下無料

*学生ならびに18歳以下のかたは

証明書の提示が必要です

*20名以上は（ ）内の団体料金、障がい者手帳

ご提示の方は無料

*本展覧会の入場料で企画展もご覧いただけます。

同時開催：生誕151年からの鹿子木孟郎

——不倒の油画道——



▲「鼎父己尊（ていふきそん）」
殷後期 前11世紀

大きくラッパ状に開いた口に、末広りの脚部がついた器を尊と呼ぶ。酒器の一種で、

酒を盛るために用いられたとされる。

脚部は中空で、内部には「鼎父己」という銘が入ることからこの名で呼ばれている。



▲「虜羌鐘（りょきやうしやう）」
戦国前期 前5世紀

14器がセットをなす釣鐘で、その表面には

表裏あわせて計8行61字の銘文が鑄込まれている。

虜羌なる人物が軍功を挙げ、主君である韓宗をはじめ、

晋公・周王からも功績を

認められたと記す。

戦国時代の様相を

物語る貴重な

歴史資料と

なっている。

▲「蛙蛇文盤（あだもんばん）」
春秋前期
前8世紀

盤は水器の一種で、儀式の場では

匜という器から注いだ水で手を清め、その水を盤で承けた。

見込みの中央にはカエルが浮彫状にあらわされ、

その周囲にはへビが取り囲むような姿が

文様として描かれている。

こうしたユーモラスな文様は

殷周青銅器のなかでもきわめてめずらしい。



▲「犧首方尊（ぎしゅほうそん）」
殷後期 前12・前11世紀

尊のなかでも断面形状が方形となったタイプ。肩の部分には「犧首」と呼ばれる獣の姿をあらわした飾りが取り付けられ、胴部や脚部の表面には饗飡文が大きく飾られている。主文様の内外を細かな渦巻状の地文が覆い尽くし、見る者を幻惑するような複雑な造形をつくりあげている。



▲「饗飡文方座簋（かうたんぶんほうざき）」
西周前期 前11・前10世紀

穀物を盛るための器。簋に方形の台座がついたもので、

中空の台座の内部には鈴が取り付けられている。

儀式の場で、参列者が祖先の神々に

穀物をうやうやしく捧げるたびに、

鈴が清らかに鳴り、

儀式の神聖性を強調したことであろう。

「アクセス案内」

京都市バス

●JR・新幹線・近鉄電車「京都駅」／京阪電車「三条駅」から5系統

●阪急電車「烏丸駅」から32・203系統

●地下鉄烏丸線「丸太町駅」から93・204系統

●593・203・204系統「東天王町」下車、東へ徒歩200メートル

◎32系統「宮ノ前町」下車すぐ

地下鉄Ⅱ東西線「蹴上駅」から徒歩約20分

●銀閣寺 泉屋博古館

鹿ヶ谷通

市バス宮ノ前町 ○

白川通

市バス東天王町 ●

東大路通

京阪電車

鴨川

丸太町通

三条通

地下鉄

京阪電車

丸太町通

作品はすべて
泉屋博古館蔵
撮影：佐々木香輔



泉屋博古館

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM

〒606-8431

京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24

